



中華民國 台灣投資通信

発行：中華民國 經濟部 投資業務処 編集：野村総合研究所(台湾)

March 2016

vol. 247

■今月のトピックス

台湾メディカルツーリズムの発展及び
関連産業への結びつきとその発展

■日本企業から見た台湾

～台湾藤田観光(股)有限公司
亀多武司総経理インタビュー～
台湾にて本格的な懐石料理店を展開する藤田観光

■台湾進出ガイド

サイエンスパーク及び環境保護
テクノロジーパークの情報

■台湾マクロ経済指標

■インフォメーション

【今月のトピックス】

台湾メディカルツーリズムの発展及び 関連産業への結びつきとその発展

台湾では優れたメディカルツーリズムサービスを提供しており、2010年から「台湾医療サービス国際化行動計画」を実施している。高品質な医療により患者の健康増進を進め、医療サービスの向上、医療の情報化、医療及び健康産業の活性化、健全で安全な医療環境、医療サービスの更なる国際化を進めている。台湾医療の国際イメージを向上させるため、「医療走出去、顧客走进来(医療の国際化で、患者(顧客)が台湾を訪れる)」というビジョン実現を目指している。また、台湾のメディカルツーリズムサービスの向上と共に、医療産業全体の持続的な発展に向けた取り組みも進んでいる。

台湾メディカルツーリズムの発展

台湾におけるメディカルツーリズムは、医療水準の高さや東アジア及び東南アジアにおける地理的な優位性・文化的な近似性により、特に近隣の新興国市場において大きなポテンシャルを秘めている。台湾から近隣諸国の中国や東南アジア各国との距離は近く、どこかの国に行くにも6時間以内のフライトで移動が可能である。また、台湾医療の質は高く、サービスもきめ細やかであり、最先端の器材も整備されており、ソフト及びハード面で強みを有する。中国や東南アジア各国との文化的・言語的な障壁も低く、各国の所得が徐々に上昇していることから医療への関心の高まり、中国及び東南アジア市場からメディカルツーリズムとして患者を呼び寄せる活動の推進を後押ししている。

台湾の多元的文化背景及び環境が メディカルツーリズム推進の強みに

台湾は環太平洋地域の中心に位置し、活発な製造業が経済発展の一環を担っている。また、外国人の受け入れに対して寛容であり、外国人配偶者や労働者、学生等のいわゆる「新住民」と呼ばれる外国人も増加している。外国人配偶者数は既に50万人に達しており、中国出身者が33万人と最も多く、次いでベトナム、インドネシアなどの東南アジア諸国及

びその他各国の配偶者が台湾に居留している。また外国人配偶者の他に、ブルーカラーも多く受け入れており、主に東南アジア諸国のインドネシア、ベトナム、フィリピン、タイの出身者が多い。2015年のブルーカラーの労働者数は既に58万人を突破しており、インドネシア出身者が最多で、次いでベトナム、フィリピン、タイと続く。その他、主に中国及び東南アジアを中心とした学生約15,000人が就学しており、出身国の内訳はマレーシアが最多の5,000人で全体の約三分の一を占め、次いで香港、マカオ、インドネシアと続いている。

新住民向け医療環境も更に多元化

現在台湾の地方自治体は、文化や言語の異なる新住民向けに、主に人間ドッグや妊婦健診に関して各種補助制度を実施している。また、数多くの病院で新住民向けの支援サービスを実施している。新北市立聯合病院板橋分院、三重分院、亜東病院等ではインドネシア語、英語、ベトナム語、タイ語等の通訳サービスを提供しており、治療過程におけるアattendサービスにより、入院や転院、退院関連手続きのサポートや新住民向け社会福祉サービスのコンサルティングを実施している。同様に、高雄市では新住民の妊婦向けのガイドブックをベトナム語版及びインドネシア語版で作成している。

多角的に発展する台湾メディカルツーリズムが中国及び東南アジアからの患者を魅了

台湾の医療機関は、多言語対応の設備やサービススタッフの配置を含めた多言語対応環境の整備を継続的に進めている。外国人がより利用し易い医療サービスに向けて、これまで新住民向けに進めてきたサービスを参考にしながら、更に多様な国々の外国人向け医療サービスの拡充に取り組んでいる。

以下の図が示すように、台湾メディカルツーリズムの外来診察は中国からの利用者及び東南アジアからの利用者がそれぞれ3割を占めている。入院患者では、6割以上が中国からの利用者であり、東南アジアからの利用者も2割を占めている。美容医療に関しては、中国からの利用者が5割、東南アジアの利用者は3割を占め、人間ドックについては、約85%が中国からの利用者である。これは、台湾の高度な医療技術が広く認められていることを示しているだけでなく、医療環境が多角的に発展していることも示しており、台湾のメディカルツーリズムは安定した成長を続けている。

図1：台湾メディカルツーリズムの主な利用者(2015年1～11月)

目的	受診者数	国別比率	
外来	180,592	東南アジア	32.1%
		中国	30.5%
入院	5,794	中国	57.4%
		東南アジア	20.9%
美容	4,112	中国	49.1%
		東南アジア	30.2%
人間ドック	78,127	中国	84.4%

出所：衛生福利部資料よりNRI作成

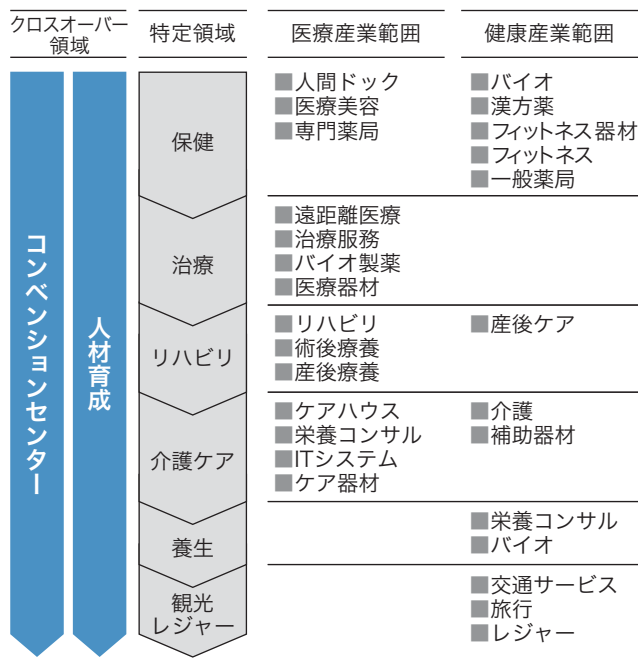
台湾メディカルツーリズムの関連産業

メディカルツーリズムに関連する産業は広範囲に及び、例えば多機能・多用途型のコンベンション施設や人材育成の他、ヘルスケア、治療、リハビリ、介護、養生、観光レジャー等の分野が含まれる。更に、健康産業にはバイオテクノロジーや、漢方薬、フィットネス器材、フィットネスジム、産後ケア、介護、栄養指導コンサルティング、旅行レジャー等も含まれる。(図2)

引き続き中国及び東南アジア市場にフォーカス

2015年、台湾を訪れた観光旅客は991万人である。この内、中国人がトップで全体の40%を占め、418万人に達している。次いで、第3位は香港・マカオからの旅客14.5%、151万人、第4位は東南アジアからの旅客13.7%、143万人と続く(日本からの旅客は第2位の163万で、全体の16%を占める)。

図2 メディカルツーリズム関連産業



出所：NRI作成

こうしたデータからも分かるように、中国及び東南アジア諸国は台湾との往来が非常に緊密であり、将来的に中国及び東南アジア諸国向けのメディカルツーリズムは医療サービスをより一層拡充させることで、更なる成長が期待できる。

医療サービスの他、更に多くの関連産業が発展

メディカルツーリズムから派生する医療及び健康関連産業は多岐に渡るが、それ故に特定市場におけるニーズと台湾の特色ある医療の優位性をリンクさせて推進していく必要がある。一例として特に注力している分野に、高級人間ドックやマイクロサージャリー、インプラント治療等がある。高級人間ドックを基軸にしながら、派生するマイクロサージャリー、そしてこれに関連する医療器材・リハビリ・介護ケア等の産業、インプラント治療に関連する人工歯や人工歯根等、その他介護ケアや観光レジャー産業等への関連性を高めながら推進を図る。但し、こうして派生する産業を個々に推進してはメディカルツーリズムとしての高い成果は見込まず、また差別化を図ることも困難である。派生する各産業を結び付け、今後のメディカルツーリズム推進関連産業の核心として位置付け、それぞれが価値ある産業として市場全体を牽引していけば、将来的には台湾の医療産業を輸出する日もそう遠くはないはずである。

(黄慧慈:h3-huang@nri.co.jp)